

2021年度 日本工学院八王子専門学校											
ミュージックアーティスト科 プレイヤーコースギター専攻											
専攻実技1											
対象	1年次	開講期	前期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	早川治			実務 経験	有	職種	ミュージシャン、作曲家、プロデューサー、レコーディングエンジニア				
授業概要											
近年の音楽界の現場として、ギタリスト等のプレイヤーも多ジャンルへの対応や臨機応変なプレイスタイル、演奏のみならず楽曲を正しく理解すること、また楽器奏法とアンサンブルの違いを理解することがより大切になってきました。この授業では、片寄ったジャンルに限らず、コードや理論と共に、様々な状況でのギタリストとしての役割を的確に理解し、その場に応じたプレイスタイルを身に付ける。											
到達目標											
各個人の思考に沿った専門技術を歴史的背景も含めて学び、考察力を習得する。作品や物事について自分の頭で考え、自分自身の考え、もしくは解答を持つことを身につける。「どういうつもりですか？」を常に考え、それを作品やパフォーマンスに生かすことで技術を向上させる。											
授業方法											
基本は少数人数での個人レッスン形式で、全体ディスカッションも適宜採用し、1年次は専門技術に至るまでの基礎的必須技術の習得を中心に進行する。											
成績評価方法											
試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)											
履修上の注意											
専門学校は、社会人としての行動・あり方を学ぶ「職業訓練」の場であるという考え方から、他の授業・実習と同様、出席状況については厳しく評価する。また、授業中の態度(居眠り、私語など)にも厳しく対応する。卒業後の自分自身の生きる力を得るものであり、自分自身のこととして主体的な考え方をもち、積極的な姿勢で授業に参加してほしい。なお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。											
教科書教材											
譜面、音源、映像等適宜用意。											
回数	授業計画										
第1回	各個人の志向と、演奏レベルの確認。前期は基礎的必須技術習得のため概ね全体レッスン。										
第2回	各個人の志向に必要な演奏技術と考え方の説明。										
第3回	40度の熱があつてボーツとしてても見失わない実践的なスケールのポジショニング。(以下テクニカル授業との連携を考慮)										

専攻実技1

第4回	1回目のポジショニングをマイナーペンタに当てはめる。
第5回	同、メジャーペンタに当てはめる。
第6回	〈スケール実践1〉3コードブルースを題材に同主のメジャーペンタとマイナーペンタ自由に行き来する練習。
第7回	〈スケール実践2〉同上
第8回	〈コードの押さえ方の違い1〉ロック、広くポップス、ジャズでの同じネームのコードの押さえ方の違い。ロック編。
第9回	〈コードの押さえ方の違い2〉同、広くポップス編。
第10回	〈コードの押さえ方の違い3〉同、ジャズ編。
第11回	〈作品制作の準備1〉ギターの音作りのコツ。※作品：ギター練習に特化したものか、曲としての物かは各個人の思考やレベルに寄る。
第12回	〈作品制作の準備2〉プロがやってるギターの録音の仕方。
第13回	各個人の志向に沿った作品制作。1曲目その1。アドバイスと必要な技術の説明。終了公演、ショーケース等作品、パフォーマンス発表の場を想定。
第14回	1曲目その2。アドバイスと必要な技術の説明。
第15回	まとめ